



TITLE:

京大広報 No. 249

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 249. 京大広報 1983, 249: 337-340

ISSUE DATE:

1983-03-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209437>

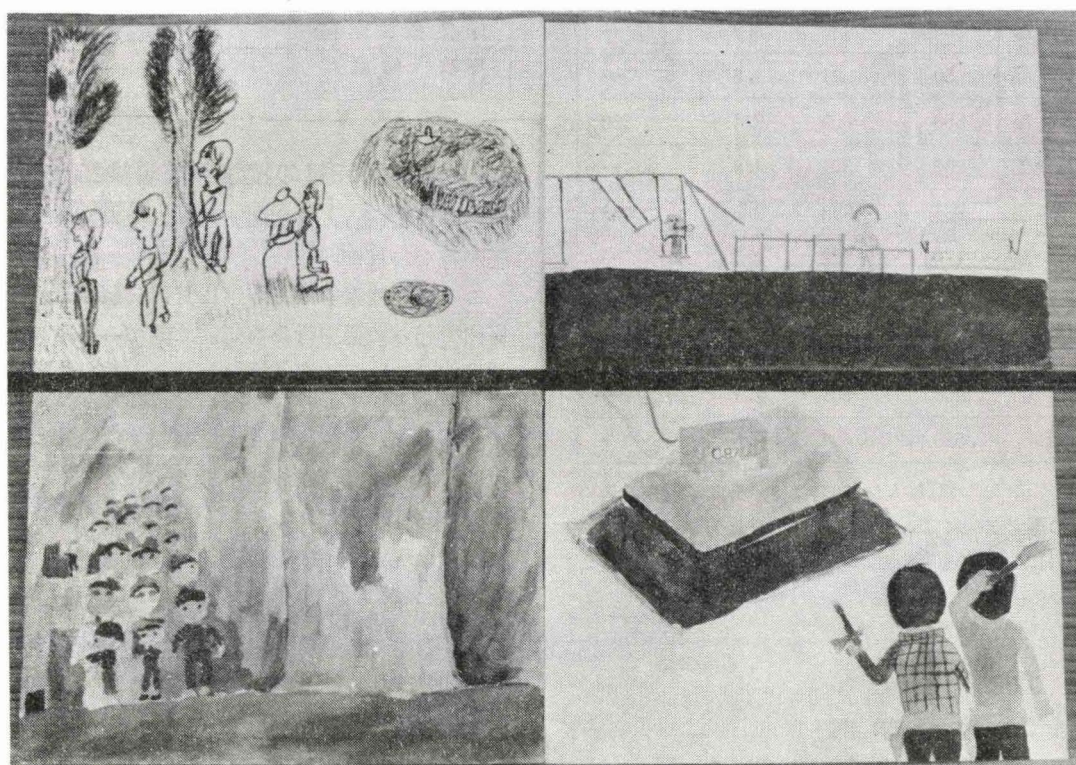
RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 249

京都大学広報委員会



集団描画テストの4例（小学校5～6年）—関連記事本文338ページ—

目 次

昭和58年度入学志願者状況等…………… 338

昭和58年度医療技術短期大学部
入学志願者状況…………… 338

2月18日の搜索・現場検証…………… 338

<紹介>

教育学部・教育人間学講座…………… 338

計 報…………… 339

<随想>

身辺雑記 名誉教授 四手井綱英………… 340

＜大学の動き＞

昭和58年度入学志願者状況等

昭和58年度第2次学力検査の実施は、3月4日(金)、5日(土)の両日に予定されているが、2月9日(水)から15日(火)まで、各学部において志願票の受付が行なわれた。法学部と理学部は、2月19日(土)に第1段階選抜の合格者を発表した。

学部別の入学志願者と第1段階選抜合格者数は、次表のとおりである。

学 部	募集人員	志願者数	倍 率	第1段階選抜合格者数
文学部	200	766	3.8	—
教育学部	50	91	1.8	—
法学部	350	853	2.4	852
経済学部	200	801	4.0	—
理学部	281	993	3.5	988
医学部	120	322	2.7	—
薬学部	80	158	2.0	—
工学部	945	1,839	1.9	—
農学部	300	801	2.7	—
計	2,526	6,624	2.6	

(注) 法学部の募集人員350名には、外国学校出身者のための選考試験による合格者16名、また志願者853名には、外国学校出身者のための選考試験志願者46名が含まれている。

＜紹介＞

教育学部
教育人間学講座

教育人間学講座の源流は、学部発足(昭和24年)とともに置かれた教育学教授法第二講座である。その後、教育哲学と改称され、さらに昭和39年度より「教育人間学」と名称を改め、現在に至っている。

教育人間学講座を最初に担当したのは下程勇吉教授(現在は名誉教授)である。次いで上田閑照教授が担当したが、昭和52年に文学部の宗教学第一講座に転じたので、その後を現在のスタッフが担当している。

昭和58年度医療技術短期大学部
入学志願者状況

昭和58年度医療技術短期大学部入学者選抜試験は、3月4日(金)、5日(土)の両日に京都女子大学で実施される予定であるが、入学願書の受理が2月1日(火)から10日(木)まで行なわれた。

学科別の入学志願者は、次表のとおりである。

学科・専攻科名	募集人員	志願者数	倍 率
看護学科	80	132	1.7
衛生技術学科	40	179	4.5
理学療法学科	20	166	8.3
作業療法学科	20	89	4.5
専攻科助産学 特別専攻	20	49	2.5

(医療技術短期大学部)

2月18日の搜索・現場検証

2月18日(金)、警察による学内搜索及び現場検証が行なわれた。

この日の搜索等は、昨年12月17日(金)、教養部構内で起った暴力行為等処罰に関する法律違反被疑事件について、突然行なわれたもので、関係部局長等が立会人となり、午前7時30分頃から始まり同8時30分頃に終了した。

搜索は、文学部学生会ボックス等3か所について行なわれ、ヘルメット、ビラ類が押収された。

また、現場検証は、教養部図書館前道路について行なわれた。

昭和41年10月、西ドイツ チュービンゲン大学のボルノー教授を招いて、3回にわたる教育人間学の講義が行なわれたことにも見られるように、講座発足以来、哲学的な教育人間学の研究と教育が中心であった。しかし昭和54年度に実験講座となつてからは、実証的研究を加え広い視野から人間と教育の本質的連関を究明しようとしている。といっても現在は1講座であり、研究領域は広く問題は多岐にわたっている。

講座として現在行なっている研究は、「子どもの遊び」のもつ教育的意味の解明である。子どもの遊びの貧困、歪み、均質化、画一化などに対する調査報告、あるいは、伝承遊びの消滅を憂え、その教育的役割を再評価しようとする試みなど、

子どもの遊びの現状に対する関心は大きく、研究調査も多い。しかし教育と遊びの関係、人間形成に対する遊びの役割は、断片的報告や直感的試みを超える基礎的理論的な研究を必要としている。子どもにとって遊びとは何かを問い、さらに教育実践における「遊びの原理」を明らかにするには、現実子どもに接し、子どもの世界に迫らなければならない。講座としては長野県及び大阪府の小・中学校の協力を得て、子どもの遊びに対する調査を実施している。表紙写真の絵は、4つの小学校（長野県と大阪府における標準規模の小学校各1、及び小規模校-全校児童数約100名-各1）の児童に対して行なった「集団描画テスト(Draw a Group Test)」の結果の中の4枚である。集団描画テストは、「したい遊びを、一緒に遊びたい友だちとしてしているところ」を子どもに絵で表現させ、その様子を短かい作文で説明させるものである。子どもの絵を通して、その子どもの性格、友人関係、学級社会への適応状態、遊びなどを知ることができる。もちろん、子どもの描いた絵だけによるのではない。他の調査の結果、学校記録、観察の記録などを総合して研究を進める。この研究は単なる質問紙調査ではなく、子どもたちに接し子どもの世界に迫ることを意図しているので、年に数回、現地校を訪れてフィールド調査を行なう。学生諸君は、調査を実施するとともに、実際に子どもたちと遊び、子どもの遊びを観察(写真1)したり、教室で授業して(写真2)京都弁で子どもたちを困らせたりしながら研究している。その他の研究としては、自然の中での子どもの遊びに長期的展望をもって取り

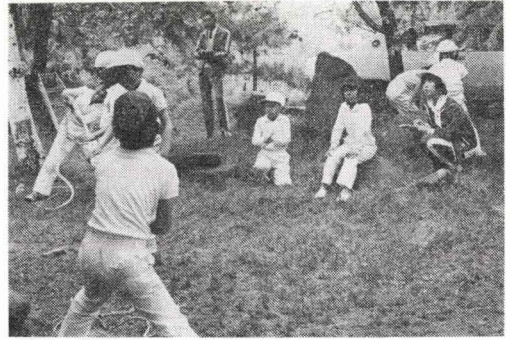


写真1 K小学校における遊びの観察

くんでいる「遊びと仕事の村」の実践的研究、及び忘れ去られようとしている明治期の子どもの遊びに対する聞き取り調査などがある。

現在のスタッフは、教授1、助教授1である。しかし教育学部では、「子どもの人間学としての教育学」を研究している教育学講座、箱庭療法や遊戯療法も行なっている臨床心理学講座などの協力を得ることができるので、本質的で、しかもユニークな研究を開拓しようと野心を抱いているのが現状である。

(教育学部)

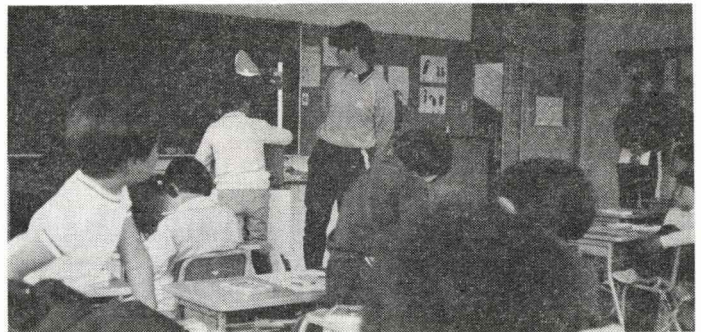


写真2 O小学校における学生の授業

訃 報

森田 慶一(本学名誉教授・工学博士)

2月13日逝去、87歳。東京帝国大学工学部卒。昭和9年本学工学部教授就任、同33年退官。その間評議員(昭和24~26年)を併任。昭和40年勲二等瑞宝章受章。専門は建築計画学及建築論。

貴島 恒夫(本学名誉教授・農学博士)

2月13日逝去、72歳。本学農学部卒。昭和30年本学木材研究所教授就任、同49年退官。その間木材研究所長(昭和37年~41年)を併任。専門は木材組織・解剖学。

笈西 縫子(医学部附属病院看護部技官)

2月14日逝去、51歳。昭和23年から医学部附属病院勤務。昭和53年本学永年勤続者表彰(30年勤続)を受ける。

森 シズ(医学部附属病院看護部技官)

2月18日逝去、62歳。昭和38年から医学部附属病院勤務。

梅原 末治(本学名誉教授・文学博士)

2月19日逝去、89歳。同志社普通学校卒。昭和14年本学文学部教授就任、同31年退官。その間評議員(昭和23年)を併任。昭和38年文化功労者に選ばれる。昭和40年勲二等旭日重光章受章。専門は日本考古学、東洋考古学。

